

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/11/08号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

FOMC、雇用統計材料出尽くしでゴールド上昇

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



前週は注目の11月のFOMCそして雇用統計の発表でした。FOMCではマーケットの期待通り今月から150億ドルのテーパリングを開始と発表。これでは動かず。ゴールドは発表前にADP雇用統計が予想上回るよい数字であったことから1785ドルから1760ドルまで下落。市場の予想通り、金利は据え置き、今月からのテーパリング開始。そして来年半ばにはそれも終了し、金利を上げる可能性があるというものでした。これらはすべてもはやマーケットでは織り込み済みの事項であり、マーケットはほとんど反応なし。しかしその後の議長会見では、「今回のFOMCはテーパリングの開始がメインピックで利上げではない。利上げまでには、まだまだ雇用を改善する必要がある。来年半ばあたりでそれが達成できるのではないかと。インフレは予想以上に長期化している。」とハト派よりの発言があり、ゴールドは逆に値を戻し再び1780ドル台へ。そして金曜日の10月の雇用統計、NFPは45万人の市場予想に対して53.1万人の増加。ゴールドは雇用統計発表直後に1793ドルから1787ドルへ下落しましたが、すぐに1790ドル台へと値を戻し、その後はじわじわと上昇、1800ドルを超えたところでさらに買いが入り1817ドルと高値引け、現在の1750-1820ドルの上限で引けました。このところ1800ドル割れを買い、1800ドル越えを売るというレンジトレーディングをしているヘッジファンドがこのレベルで再び売ってくるのかどうか気になるところです。ただ雇用統計の良い数字にも拘わらずゴールドが大きく上昇してきたことで、彼らの行動パターンも変わってくる可能性が高いと考えます。マーケットの関心は米国の雇用状況から「インフレの進行」に移りつつあるようです。今週1820ドルをブレイクすることがあればゴールドは新たな価格帯に移る可能性があります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

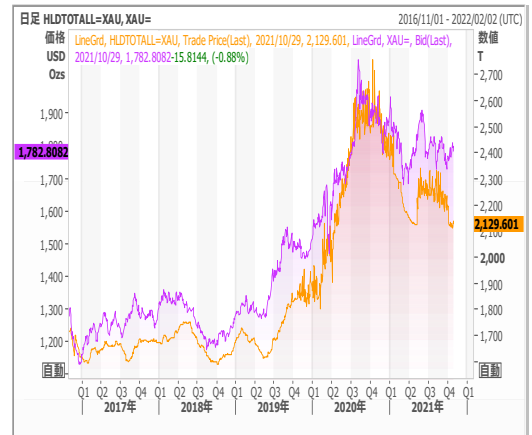
【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (4)

今回からはゴールドの需要を見てみましょう。ゴールドの需要の最大の分野は宝飾品です。2021年の予想では1815トン。その次の分野は投資です。現物とETFを合わせると1246トン。中央銀行の買いが420トン。一方産業の材料として使われる加工用需要は324トンと需要全体の7%に過ぎません。これは、貴金属の中でもゴールドの大きな特徴となっています。ゴールド意外のシルバー及びPGM(白金族)はあくまで「産業用メタル」としての側面が強く、シルバーはその需要の50%が産業用需要、PGMではプラチナの65%の需要が工業用需要そのうち40%が自動車触媒、パラジウムにいたっては需要の80%が自動車触媒でありその他の産業用需要を含めると90%以上になります。同じ貴金属の範疇にあっても、ゴールドだけは全く違った需要構造があります。その物質特性からの産業用の需要よりも圧倒的にそのままの形での需要、つまり、宝飾品や投資用の地金やコインなど、ゴールドをゴールドのまま保有する需要が圧倒的に大きいのです。宝飾品もインドや中国ではほぼ純金投資と考えると、ゴールドは貴金属のなかでも特に「投資用メタル」だということができます。中央銀行はゴールドを買って保有しますが、シルバーやプラチナ、パラジウムを資産として大量に保有することはありません。それが端的な証明だと言えるでしょう。

(宝飾需要)

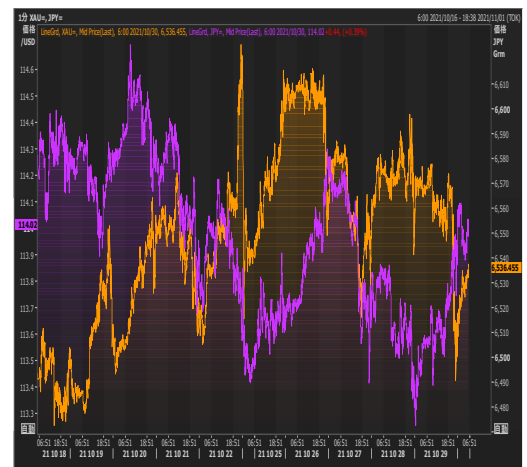
2020年は過去10年間でも最も宝飾需要の少ない年でした。これはコロナによる影響で最大の市場であるインドそして中国の都市ロックダウンにより、宝飾品どころではなくなったからです。2021年はその反動で需要は大きく伸びています。宝飾品の最も大きな市場は中国とインドです。コロナ前の2019年の需要量は中国638トン、インドは545トン。第三位は米国の131トンであり、その他の国々は50トンを超える国はありませんでした。ちなみに日本は17トン。中国とインドがいかに巨大な市場かわかります。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

